|  |
| --- |
| **令和５年度 奈良市食育・地産地消推進会議録** |
| 開催日時 | 令和５年７月７日（金）午後２時半から午後３時半まで |
| 開催場所 | ＷＥＢ会議 |
| 出席者 | 委　員 | 岩橋委員、寺田委員、浅沼委員代理南谷氏、萩原委員、山中委員【計５人出席】（稲野委員、木村委員、増井委員、明神委員は欠席） |
| 事務局 | 農政課 米田課長、堀田係長、秦 |
| 開催形態 | 公開（傍聴人１人） | 担当課 | 観光経済部　農政課 |
| 議　題又は案　件 | １　令和４年度食育・地産地消事業　実績について２　令和５年度食育・地産地消事業　実施計画について |
| 決定又は取り纏め事項 | 議題について意見交換を行った。 |
| **議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等** |
| 議題１、２について、事務局より報告を行い、関連する話題について委員から以下のとおり情報共有がなされた。●岩橋委員（帝塚山大学　現代生活学部食物栄養学科准教授／ヘルスチーム菜良顧問）コロナ禍で停止していた学生の食育ボランティアサークルの活動が徐々に再開され始めている。しかしコロナ禍において数回代替わりしたことで活動の引き継ぎが十分に行えなかったため、一から取り組みを始めるような状態。皆さまには今後もご指導ご支援いただきたい。●山中委員（奈良市立大宮小学校　栄養教諭）市立学校における食育の推進について、実施状況の実績を測れない令和４年度の状態から、所管課の移行及び体制の整備があったことで、令和５年度より実績を把握するよう変更するという報告があったが、これは非常に良い動きである。市立学校における食育は、栄養教諭・学校栄養職員による「食に関する指導プログラム」で実施しているが、教諭・職員が未配置の学校も多い。積み重ねてきたスキルで、配置・未配校ともに、充実した食育が実施できるよう、努めていく。●南谷氏（イオンリテール株式会社近畿カンパニー　デジタル・営業推進部　エリア政策グループマネージャー）食と健康という分野について、以前は「野菜を食べよう、地元のものを食べよう」ということメインに啓発を進めていたが、近年は、例えば高齢者に向けてはフレイル予防といったような、ライフステージに合わせた食育という視点を組み込んで啓発活動をしていきたいと考えている。また単に野菜摂取を呼びかけるだけではなく、それぞれの食材の栄養成分について詳しい情報発信も必要であると感じている。●寺田委員（奈良県農業協同組合　奈良・天理・山辺地区統括部　部長）農業を次世代に繋げていきたいという思いが強い。コロナで停滞していた、田植えや稲刈り等の指導を年間で受講できるアグリスクールは、形を変えて徐々に再開している。農業への興味関心を抱く人は少なくないが、実際は収穫の部分だけがイメージされ、種を捲いて収穫するまでの間で必要となる細かな作業については、あまり知られていない。そのような日々の世話こそに楽しみを見つけ、農作業全体を知り親しんでもらいたく、組織として何ができるかを検討しているところである。●萩原委員（奈良市４Ｈクラブ相談役）奈良市ではイチゴでの新規就農が多く、近年も一定数いるものの、資材費の高騰により初期投資の費用が非常にかさむため、数年前と比べると非常に厳しい状況になってきているというのが生産現場の所感。食育に関連する取り組みとしては、奈良クラブと提携して米作りをしており、サポーターやその子供たちと田植え体験などを行っている。サッカーへの興味を入り口に、農業に触れる機会を持ってもらい、何か関心を持ってもらえたら良い。生産した米はフードバンクへ寄付するなど、地域への貢献にも繋げていくつもりである。また選手自身にも、本業とは別に取り組む仕事としての農業に関心を抱いてもらうのも良いかと考えている。 |
| 資料 | （資料１）次第（資料２）【R4実績】奈良市食と農の未来づくり推進計画実施計画シート（資料３）【R5実績】奈良市食と農の未来づくり推進計画実施計画シート（資料４）奈良市食と農の未来づくり推進計画アクションプラン(R5更新)  |